

「ガールズ&ボーイズ」
蓬萊竜太

「欲望のみ」

ケラリーノ・サンドロヴィッチ

近藤芳正 Solo Work

「ナイフ」

近藤芳正

「未練の幽霊と怪物」

『挫波』『敦賀』

岡田利規

パラコの寄り道ぶらぶら

「あなたを抱きしめる日まで」

桑原裕子

PLAT NEWS

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2020年7月-8月

vol.44



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

企画・発行/
公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン/
味岡伸太郎+有限公司STAFF
令和2年6月発行 44号[隔月発行]



TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

總の国と上は芸術劇場 PLAT
〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話 0532-39-8810
URL <http://toyohashi-art.jp>
開館 9:00-22:00
休館日 第三月曜・年末・年始
第三月曜が祝日の場合は翌平日

パラコの
寄り道
ぶらぶら

撮影 伊藤華織



「あなたを
抱きしめる日まで」
芸術文化アドバイザー
桑原裕子

「最近むちゃくちゃ面白い映画観たの。コレおすすめ」「りよ。観てみる」「さっき見終わった。最後のどんでん返しが良かった」「うまかったよね」「ジャイアンツって映画観たことある?ジェームス・ディーン、ロック・ハドソン、エリザベス・テイラーの出てた映画」「ない!観てみようかな」「いろいろな人と気軽に会うことが出来ない今、こんなLINEのやりとりが増えました。その相手は、父です。ちなみに「りよ(了解)」と書いている方が、76歳の父です。父は若者言葉?インターネット用語?を使うのが好きで、LINEで会話をすると「ワロタ」とか私でも普段使わないような返しを混ぜてきます。「りよ」に関してははじめ、「りょう」とか「了」などを書いて送ってきていました。私は台本を書き上げる時、物語の終わりに「完」の意味で「了」とつけるのが昔からの習慣なのですが、父「散歩に行くのがかたつたるくて階段の上り下りしかしてないよ」「私「もう少し運動した方がいいよ」父「了」これだとなんだか、強制的に会話が終了した気分になります。そこで私から「りよ」だけでいいよと教えたわけですが、もっと若者風に進化すると「り」でも成立するらしいよ、とまでは伝えていません。絶対乱用するに決まっています。そもそも「りよ」だって大人から言わせればしからんと怒られそうどころですし…。ともかくこんなやりとりが増えたのは、自粛期間のさみしい日々の中で数少ない、良かったと思えることのひとつでしょう。実家は、私の自宅からほんの200メートル離れたところにあります。普段は夕飯のおかずをたくさん作ったときに母が届けに来てくれたり、食べに行ったりします。でもこの二ヶ月、顔を合わすことさえほとんどしていません。たまに玄関先で食事を受け取ることはあっても、思い切り手を伸ばさないと届かない距離で一瞬受け渡すだけ。ほぼ会話もせずに別れます。食事の感想はやっぱりLINE。母はこのところ格段にスタンプ遣いがうまくなりました。母の日のプレゼントも、楽天のリンクを飛ばして選んでもらいました。こんなのは、ちよつと極端すぎると思います。8割の行動制限をしている中、散歩がてら実家に寄って玄関先

で(マスク着用で!)立ち話するくらいはさほど問題無いのかもしれませんが。でも逢えば逢ったで腰を据えてゆっくり話せないことや、母に至っては娘を抱きしめられないことが逆にストレスになるのかもしれませんが。母はもともとちよつと欧米人(欧州人?)みたいなところがある人で、ハグが好きなお人です。私だけじゃなく、私の友達や夫、劇団員に至るまで、抱きしめたり頬をなでたりする人で、私もそういう母の気質をちよつと受け継いでいるところがあります。だから「コロナが収束したら何しよう」と考えるときに、芝居したり、友人と飲んだり、映画や旅行に行きたい!と考える前に、誰にとんでもなく「ああ…抱きしめたい!」という衝動がわいてしまいます。思い切り誰かの背中に手を回して、ぎゅつと力を込めて抱き、人の温もりを感じたいなと思ってしまうのです。恥ずかしいので口にするのは初めてですが。私の母ほどじゃないしろ、この時期、非常事態宣言以降は特にそんな思いに駆られる人は多いんじゃないでしょうか。自分でも意外なほど。もしかしたらはじめてそう思ったなんて人も、いませんか。日本という小さな島国で、私たちは知らず知らず肩を寄せ合い生きることに慣れてきました。満員電車はいやけど、小さな焼き鳥屋にぎゅつと密集してお酒を飲んだり、縁日であふれかえる人のなか露店に並んだり、何気なくしていた「密」が恋しくてたまりません。おとしアメリカ横断旅行をしたのですが、もし私がニューメキシコあたりの平野に暮らしていたら、また違った想いだったのでしょうか。今、これを書いているのは5月の初めです。日々状況が変わりますから、これが掲載される頃どのくらい日常が戻ってきているのか今は正直想像もつきません。でも、もう少し。あともう少ししたらきつと。いつもの日々が戻ってきて、父とのLINEは続けようと思います。こんなに映画や政治の話をするのは初めてのことであります。母はすぐうちの猫に逢いに来ると思っていますので、LINEは減らしましょう。満席の劇場が戻るのには、更にもう少し先になるかと思っています。でも必ず戻ってくるかと信じて、今は家にこもっています。劇場であなたに会えたら、ぎゅつと抱きしめてしまうかも…。いやいや、それはまた別の問題になってしまうので、こらえると思いますけど!

「ガールズ&ボーイズ」 演出 蓬萊竜太



上演予定でした『ガールズ&ボーイズ』が公演中止になりました。このお芝居は大変面白い、そして大変やりがいのある作品で、早い段階から準備を進めていただけて、非常に悔しい思いをしています。いつか必ずどこかで上演したいと思っていますので、楽しみを先延ばしにしたとポジティブに捉えて頂けると大変嬉しく思います。

僕はいま、未来に予定されている作品の執筆や準備をしています。「演劇の存続の危機」ともいわれていますが、むしろこういう期間、体験があったからこそ、面白いものが生まれたり、新しい発明ができたりするのだと思います。僕自身もそういう作品づくりを必ずしたいなと思っています。再会の時まで、しばしお待ちください。

再会の時まで、
しばしお待ちください。



プラットニュース vol.42(2020年3月-4月)にて蓬萊竜太インタビュー掲載



穂の国とよはし芸術劇場 芸術文化プロデューサー 矢作勝義

穂の国とよはし芸術劇場では、令和2年度も様々な事業を市民の皆様にお届けできるように準備をしておりました。

しかし、残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響で、5月下旬までの臨時休館。そして現時点で9月中旬までの事業は延期もしくは中止となってしまい、様々なアーティストの方をプラットにお迎えできなくなってしまいました。また、開館以来発行してまいりました「プラットニュー

今出来ることは何か、探しています。
見守っていてください。

cube presents 「欲望のみ」 (プレビュー公演)

作・演出
ケラリーノ・サンドロヴィッチ



こうなるのではないかと、薄々予想していたとはいえ、実際こうなってしまうととても残念です。楽しみにして下さっていた皆様、ごめんなさい。

古田新太座長と創る舞台の現場は、他の創作にはない特別な現場です。何が特別かという、格段にくだらない作品を、皆でゲラゲラ笑いながらも、非常に真剣に創る、という、「ある種の笑い」へのコンセンサスが予め為されているチームであるが故の「特別」で、今回は新たな参加者も多数加え、ナンセンスとはまた異なるテイストの新作コメディをお贈りするはずでした。

この度のコロナ禍による中止を経験するのは二度目です。二度目だからと言ってダメージが半減するわけはありません。皆で生き延び、いつか必ず上演したいと思いつつ、今出来ることは何か、探しています。どうか見守っていてください。



プラットニュース vol.42(2020年3月-4月)にて近藤芳正インタビュー掲載

PLAT小劇場シリーズ 近藤芳正 Solo Work 「ナイフ」

出演
近藤芳正



豊橋の皆さま、久しぶりに皆さんにお会い出来る事を楽しみにしていたのですが、思い掛けない世の中になりました。本当に先の人生は読めないなと改めて噛み締めています。

いま繰り返し、頭の中でリフレインしている言葉があります。亡くなられた津川雅彦さんが口癖のように仰っていた言葉で、「起きたことが正解」。津川さんは誰かに伝えるのではなく、自分に言い聞かせるように仰ってました。この呪文のような言葉が、「12人の優しい日本人を読む会」にも繋がったんだと思います。コロナが無ければあのメンバーが集まることは出来ませんでした。

後輩の立ち上げた劇団 zooom! にも参加してみました。「いまだからこそ出来ること。ワクワクするのが条件。」これが自分へ言い聞かせている言葉です。

豊橋の皆さま、絶対また逢いに行きますので、それまでどうかお元気で!



プラットニュース vol.42(2020年3月-4月)にて近藤芳正インタビュー掲載

ス」も、今回は4ページで発行することとし、非常に残念ながら6月にプラットにお越しいただくことが叶わなかったアーティストの方々から、皆様へのメッセージをいただきました。

秋以降の公演・イベントもどうなるか不透明な部分が多数あります。しかし、このような状況だからと、劇場とアーティストが一緒になり、これまでとは異なる視点や手法を考え、皆様に安心して享受していただける作品

「未練の 幽霊と怪物」 『挫波』『敦賀』

作・演出
岡田利規



上演は当初予定していた日程では行えなくなってしまいましたが、延期して実現される予定です。そのときを楽しみに待つことにします。

ただ待つだけでなく、この「未練の幽霊と怪物」という作品でやろうとしていることに関連したなんらかの表現を、この状況下で行える、この状況下ならではの仕方、このプロダクションのメンバーで、そう遠くないうちに、発表したいとも思っています。

今を、ある意味で演劇(のみならず、でしょうが)を刷新する好機だと捉えたい。だからわたしたちはその好機に跨がり、来たるべき時代に準備しておこうと思います。

来たるべき時代に
準備しておこうと思います。

豊橋の皆さま、
絶対また逢いに行きます。



プラットニュース vol.43(2020年5月-6月)にて岡田利規インタビュー掲載

や事業を企画してお届けしたいと考えています。そして一日も早く、市民の皆様安心して劇場にお越しいただける時間が戻ることを願います。

今回メッセージをいただいた方々のインタビュー記事を、過去のプラットニュースにて掲載しております。過去号についてはプラット館内のほか、劇場ホームページからお読みいただけます。ぜひご覧ください。